

# 「かたりべ」から考える平和な世界

## 1 対象学年 中学2年生

## 2 ねらい

今の子どもたちにとって、戦争はもはや実感の伴わない過去の出来事かもしれない。戦争の悲惨さを伝えることは重要なことでありながら、どこか他人事のように感じてしまう。

本学級の子どもを対象に平和に関するアンケート調査を行ったところ、今の日本が平和であると回答した子どもは約76%であった。その理由は、「戦争がないから」というものがほとんどであった。また、「8月6日が何の日か知っていますか」という問いに対して、正解した子どもは約34%にすぎず、「戦争について何か知っていることはありますか」という問いに対しては、「怖くて恐ろしいもの」「たくさん人の命が奪われる」という表面的な答えばかりであった。このような結果から、子どもたちは平和な世の中を実感し、平和には「戦争」が大きく関係していると理解しているものの、戦争に対する関心や認識は低いように感じる。

戦後から現在まで、「平和を築く民主的主権者を育てる教育」としてさまざまな形で平和教育が行われてきた。平和教育では、戦争の悲惨さを伝える実践が多くある一方、戦争体験を語り継ぐ「かたりべ」に焦点を当てた実践は少ない。戦後70年を迎えようとしている今、かたりべの減少や高齢化にともない、若者がかたりべの体験談を語り継ぐ活動をニュースでも耳にするようになった。子どもたちには、戦争の悲惨さを伝えるだけでなく、かたりべの体験談からかたりべの思いを考えさせることで、平和な世界の担い手に育ってほしいと考えた。

そこで、まず初めに、事前のアンケート結果から自分たちがいかに戦争に対して認識が低いかを実感させる。そして、原爆被害の大きさや様子、かたりべの戦争体験談を通して、当時の戦争の悲惨さを知るだけでなく、かたりべがどのような思いで今のわたくしたちに戦争体験を語り継いでいるのかを考えさせ、平和の担い手として今後の自分に何ができるかを考えさせたい。

## 3 指導の流れ

### (1) 準備物

かたりべ DVD (愛教組かたりべ学習会 2014年度版)、ワークシート、写真資料

### (2) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点
10分	1 アンケート結果を知り、戦争の悲惨さについて知る。 <ul style="list-style-type: none"><li>アンケート結果から8月6日が何の日かを知る。</li><li>原爆投下前後の町の写真を見比べ、気づいたことを発表する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>8月6日が広島に世界で初めて原爆投下された日であることを伝え、正解率「約34%」という数字から、自分たちがいかに「戦争」について関心が低いかに気づかせる。</li><li>原爆投下前後の町の写真資料を提示し、「原爆投下前は〇〇があるが投下後は〇</li></ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>戦争の被害について、資料や写真を用いて理解する。</li> </ul>	<p>○がない」など、視覚的に見てわかる簡単な答えを自由に発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料や写真を用いて、戦争の被害を数値で示したり視覚的に訴えたりして、戦争の悲惨な状況や戦争の中で失われる命の儚さ・尊さをより共感的に捉えさせる。</li> </ul>
15分	<p>2 かたりべ DVD を視聴し、かたりべの思いを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>写真からは伝わらない、かたりべが五感で感じた原爆投下直後の様子や遺体を片付けた体験談を聞く。</li> <li>かたりべがどうして悲しい戦争体験を思い出してまで皆に体験談を語るのか、かたりべの思いについて話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真では伝わらない戦争体験を語り継ぐ「かたりべ」の存在を伝え、かたりべ DVD に没入しやすくさせる。</li> <li>かたりべが話された、写真では伝えられない「熱」「音」「臭い」「感触」をキーワードとしておさえさせる。</li> <li>グループで意見を交流させる際に、自分の考えをワークシートにまとめさせてから話し合わせる。</li> <li>かたりべの思いを考えさせることで、ねらいとする価値に近づけさせる。</li> </ul>
20分	<p>3 若いかたりべの活動を知り、自分に何ができるか考え、これからの自分について、メッセージを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若いかたりべの存在を知り、自分には何ができるのか考える。</li> <li>かたりべ、自分自身、両親など、自分の思いを伝えたい人を決めてメッセージを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちに近い若い人中にも、できることを考えて行動に移している人がいることを紹介し、自分に何ができるのか考えるきっかけを与えるようにする。</li> <li>うまく考えが書けない子どもには、直接的にかかわる大きなことでなくても、日常生活の中でできる小さなことが平和な世の中の実現につながることを助言する。</li> <li>「知らなかった」「かわいそう」など、他人事の感想にならないように、これからの自分にできることの誓いについても書くようにさせる。</li> </ul>
5分	<p>4 平和についての教員の話聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「集団的自衛権」について、これからの日本や自分たちが置かれている状況を理解させる。そして、平和な世界を創造していくには、今まで以上に一人ひとりの考え方、行動の仕方、生き方が大切になってくるといった気持ちを高めさせる。</li> </ul>

## 4 実践のまとめ

### (1) アンケート結果を知り、戦争の悲惨さについて知る。

授業の導入で、事前に行ったアンケート結果から「8月6日が広島に世界で初めて原爆が投下された日」であることを伝え、学級でどれだけの人が正解したかを数人に指名して答えさせた。「30人くらいかな…」「半分くらい」など意見が出たが、教員が「13人で全体の約34%です」と言うと、「ええ～少ない」と思わず声が上がった。

そして、原爆投下前後の町の写真を見比べ、気づいたことを発表させると、「ほとんどの建物が崩れている」「人が誰もいない」など、視覚的に見てわかる意見がいくつも出た。その後、資料や写真を用いて、戦争の被害を数値で示したり視覚的に訴えたりした。広島市の人口35万人のうち1945年の12月末までに14万人が亡くなったこと、原子爆弾の「熱線・爆風・放射線」の3つのエネルギーが瞬間的・無差別的に大量の破壊と殺りくを引き起こしたことなど、いくつもの画像を見せながら理解させた。いつも明るく授業を受ける子どもたちの表情は曇り、思わず見ていられなくなり目をそむける子どももいた。



【戦争の悲惨さを聞く子どもの様子】

### (2) かたりべの体験談を聞き、かたりべの思いを考える。

「これまでの写真や資料からは伝わらないものがあるんだけど何だと思う？」と子どもに投げかけ、かたりべの生の体験談を聞かせるため、2014年度版愛教組かたりべ学習会のDVDを視聴した。「6 原爆投下」の一部を見せながら、かたりべが**五感で感じた**、「熱」（とにかく焼けるように熱かった）、「臭い」（人が焼ける例えようがない臭い）、「音」（自分の息が聞こえるだけで何も音がしなかった）、「感触」（遺体を片付けるときに皮膚がべろりと剥がれた）を、写真では伝わらないものとして黒板にまとめた。子どもたちはかたりべの映像を見ながら誰一人として身動きひとつせず、かたりべの話に引き込まれている姿が印象的であった。

その後、「かたりべはどのような思いで、悲しい戦争体験を思い出してまで皆に体験談を語るのでしょうか？」と問いかけ、ワークシートに記述させた。そして、一人ひとりの考えをもとにグループで意見を交流させた。グループの代表に話合った意見を発表させると、以下のような意見が出された。

- ・ 戦争の怒りや悲しさ、悲惨さなどを伝えるため。
- ・ 二度と同じような悲劇を引き起こさないため。
- ・ 平和の大切さを考えてほしいから。 など



【グループでの話し合いの様子】

### (3) 自分に何ができるか考え、これからの自分についてメッセージを書く。

これまでの学習を踏まえ、これからの自分に何ができるか考えさせた。初めて平和教育を受ける子どもたちに唐突に考えさせることは難しいと思い、自分の考えをもつきっかけを与えるために、子どもたちと同じ若い世代の中にも、できることを考えて行動に移している一例として、3年間の研修を受けてかたりべの体験談を受け継いでいく若いかたりべの映像を見せて紹介した。さらに、若いかたりべのように直接的に大きくかかわることだけでなく、今日からできる小さなことも平和

につながることを伝えて考えさせた。子どもたちは、以下のような考えをもつことができた。

- ・ 自分自身をもっと戦争について知る。
- ・ 両親や自分に子どもや孫ができたときに伝える。
- ・ 差別や偏見をなくして友だちとなかよくする。
- ・ 戦争で命を奪われた方のためにも、今自分が生きていることに感謝して生きていく。 など



【 教員の説話を聞く子どもの様子 】

その後、「自分の思いを伝えたい人にメッセージを書こう」と投げかけ、メッセージを書かせた。子どもたちは、かたりべ、未来の自分、被害を受けた広島の方など、思い思いの人へ宛ててメッセージを書いた。どの子どものメッセージも、今回の学習を通して感じたことや今後の自分の決意が強く表れていた。

未来の私へ  
私は戦争が嫌いです。何も悪くない人達が殺されるのはおかしいと思うから。その戦争とは別に、普段生活している中でも仲間同士の小さな「戦争」ってあると思います。例えば、人の嫌なことを言ってケンカになったり、意見の違いでモメたり。どっちの結局は、自分が謙虚な心を持ってなかったり、人を思いやる心を持ってなかったりしたからだと思います。世界の戦争も生活の戦争も考えや心の持ち方を少し変えるだけで、なくなることもあると思います。だから私は、謙虚な心・人を思いやる心を持って生きていきたいです。未来の私はできていますか？

「自分に向けた子どものメッセージ」

広島原爆体験者の人達へ  
私は原爆が落とされた時のことをよく知りません。心と体に負った傷もありません。しかし、ここからの平和を考えることはできます。小さなことでもいい、私は普段からやるような「平和」を周りの人とともに作ってみたいと思います。例えば友達と意見を交換したり、家族と一緒にしゃべる時間を取ったり、生活の中でできる「平和」がたくさんあります。小さな平和が大きな平和につながっていく、そんな世の中になる日が来ると私は信じています。今できることは少ししかありませんが、いざ木は集まってきて、大きい平和なときが私や皆さんへ届きますように……。

「原爆体験者に向けた子どものメッセージ」

## 5 実践の成果と今後の課題

原爆投下前後の町の様子を比較したり、写真や資料を用いたりして戦争の悲惨な状況や命の尊さをより共感的に捉えさせたいと、写真では伝わらないものとして、かたりべ体験談を視聴させた。授業後のアンケートで「かたりべの話される一言一言に重みがあって胸に響いた」という意見や、子どもが食い入るように見つめる姿からもかなり効果があったと考える。また、かたりべの思いを考えさせたり、若いかたりべが実際に行動に移している活動を知ったりしたことで、子どもたちは自然とかたりべの思いに応えるために自分にもできることはないかと考えることができた。そして、思いを伝えたい人へ宛てたメッセージでは、本実践で感じたことや戦争・平和に対する自分の思い、日常生活の中でできることや将来への展望など、どの子どもも熱い思いを用紙ぎっしりと書くことができた。

本実践を通して、「先生その本を借りてもいいですか」と教員が集めた戦争に関する本を借りにきたり、図書館で関連した本を借りて読んでいたりする子どもの姿が印象的であった。戦争や平和に対する興味を高め、「さらに知りたい」と思える行動が見られたことは大きな成果といえる。また、まったく興味・関心がない0%、すごく興味・関心があるを100%として子どもに数値を記述させた「戦争や平和に対する興味・関心度」の変化を実践前と実践後で比較すると、学級平均を36.1%から87.3%に大幅に増大させることができたことから、本実践の有効性を実証することができる。

しかし、本実践で子どもたちに伝えることができたことは戦争のほんの一部であり、子どもたちが考えた平和への意識は一時的なものであることは否めない。本学級の子どもが、今回初めて平和教育を受けたように、まだまだ子どもたちが戦争や平和について考える機会は少ないように感じる。今後も、

教員自身が平和への意識をさらに高め、平和について継続的に考える機会をつくっていきたい。